

日本聴神経腫瘍研究会からのお知らせ

各学会会員の皆様

平素大変お世話になっております。

このたび、日本聴神経腫瘍研究会にて、「聴神経腫瘍の診療指針」を作成し、ホームページ上に公開いたしました。2026年10月31日までパブリックコメントを募集しており、まだ暫定版となりますが、その後にパブリックコメントを反映した最終版をリリース予定です。

聴神経腫瘍の発生頻度は非常に低く（年間に10万人に1名程度）、この低い発生率に加えて、手術が非常に高難度であるという特殊性から、定位放射線治療や経過観察も一般化しており、医師の経験や考え方により選択する治療法が異なる場合が多々みられているのが現状です。手術・定位放射線治療・経過観察の3つの診療方針は、それぞれ目的やコンセプト、メリット、デメリットが異なっており、これらの選択を適切に行うためには、わかりやすい診療指針が必要と考えられます。聴神経腫瘍の扱いに関するガイドラインは、米国、ヨーロッパから出されていますが、臨床上重視されるべき年齢の要素が考慮されていないため、実際に治療を決定する上で実用性に欠ける点があり、また、選択の実情も国別に大きな差異が見られるところです。そこで、年齢の要素を十分に考慮した「日本版の診療指針」を作成することは、聴神経腫瘍を発見する機会の多い耳鼻咽喉科医、紹介を受けることの多い脳神経外科医にとって、そして何よりも聴神経腫瘍と診断された患者にとっての福音となる可能性が高いと考えられました。そこで、聴神経腫瘍を取り扱う専門的な学会である日本聴神経腫瘍研究会が、患者や担当医師が容易に参照できる「診療指針」を提示することは一つの責務と考えました。2023年5月の世話人会にて「聴神経腫瘍の診療指針」の作成が承認され、策定委員会を構成して3年の年月をかけて作成に至り、2026年6月の世話人会にて承認されたものです。

本診療指針は推奨度を伴ういわゆる「ガイドライン」ではなく、文献を参考にはしているものの、ある程度選択に幅を持たせた「診療指針」であり、論文形式ではなく、ホームページ上の公開を企図したものです。また、放射線治療の成績の蓄積等を加味して5年毎を目処に更新することを考えています。

日本の医療の特徴を十分に勘案した本指針を有効に活用して頂くことを期待しています。

ご意見のある方は、メールにて mkouno@tokyo-med.ac.jp（「聴神経腫瘍の診療指針」策定委員会委員長・河野道宏）までご意見をお寄せください。

その際に、氏名・所属先・診療科・メールアドレスを明記の上でご意見を頂ければ幸いです。パブリックコメントの募集期間は 10 月 31 日までとさせていただきます。

2026 年 9 月 26 日

日本聴神経腫瘍研究会 世話人代表

河野 道宏、大石 直樹